

# 宮中取水ダム試験放流に伴う検証の内容 平成24年度(3年目)調査等計画(案)

※現地調査は東日本旅客鉄道(株)、解析・評価は北陸地方整備局信濃川河川事務所を基本

項目	調査内容	調査の目的等	平成22年度 (1年目)	平成23年度 (2年目)	平成24年度(3年目)	
						備考
河川形態	航空写真判読	各流量の瀬、淵等河川形態の状況を確認する。	○	○*	△	現地調査は、十日町橋、栄橋、川井大橋で実施。 航空写真判読は、宮中取水ダム流入量が約3,000m <sup>3</sup> /sを超えた場合に実施。
河川水温	水温実測	夏季の流量における水温を確認する。	○	○	○	
付着藻類	現地調査	夏季の流量における付着藻類の異常繁茂の状況を把握する。	○	○	○	
底生動物	現地調査	底生動物の生息状況を把握する。	○	○	○	初春季調査については、平成23年度の調査結果により実施の判断を行う。
魚類の生息及び 遡上・降下	生息・生育状況調査	魚類の生息・生育状況を把握する。	○	○	○	
	生息場の状況調査 (滞筋)	魚類の移動のために必要な水理条件(水深)が確保されているかどうかを確認する。	○	○*	△	河川形態と合わせて実施(宮中取水ダム流入量が約3,000m <sup>3</sup> /sを超えた場合)
	アユ生息・生育状況調査	アユの生息・生育状況を把握する。	○	○	○	
	サケ遡上調査	サケの遡上数を把握する。	○	○	○	
河川景観	写真撮影	各流量の河川景観を把握する。	○	○*	△	河川形態と合わせて実施(宮中取水ダム流入量が約3,000m <sup>3</sup> /sを超えた場合)
河川水質	水質調査	各流量の河川水質を把握する。	○	○	○	
河川利用	河川利用状況	釣りやその他の河川の利用実態を把握する。	○	○	○	
	釣場適性把握	釣り場として利用可能な範囲を把握する。	○	○	○	
	舟下り適性把握	河川利用の一形態として舟下り(ラフティング等)の適性を把握する。	○	○	○	

○：実施    △：場合によっては実施

\*：平成23年度に宮中取水ダム流入量が約3,000m<sup>3</sup>/sを超えたため実施した。